

## 札幌生活と帰京後の生活

第1期 OB 酒井 誠太郎

何故また札幌出身でもない自分が札幌に就職をしたのか。

なぜと問われて返す言葉に「なんとなく」という言葉ほど都合よい言葉はない。なんとなく札幌に行きたくなったのだ。いつもはそんな風に答えるけれども、今回は野暮を承知で少し話すでしょう。

私、慶應義塾大学商学部小野晃典研究会第1期酒井誠太郎が就職を機に札幌に行くことを決めたのはまだ尿酸値も体重も正常値だった21歳の頃のこと。大学院試験に見事に落ちた後、秋採用を行っている会社を回り、日本アイビーエムソリューションサービス株式会社(通称ISOL)から内定をありがたく頂戴した。

ISOLは東京にも事務所はあるが、本社は札幌なので、内定式も札幌で行われた。そこで行ったのが「テクノパーク事業所」。夢あふれるアミューズメントパークのようなステキな名前を裏腹に裏には山、回りはコンビニすらもない。方や、車通勤、ビジネスカジュアル、静かなオフィス、4階吹き抜けになったガラス張りの正面玄関とカフェテリアという充実した職場環境。そこで、札幌に行きたくなったのだ。「こんなところで仕事したいなあ」と。冗談交じりだったのだろう「ここで仕事したいって方いましたら、人事の方に是非希望出してくださいね。」と部長さん。それを受けて半場ダメモトで翌日人事の方に「希望が通るのであれば」と、テクノパークに就任させてもらえるよう掛け合ったのだ。

まさか、希望通り札幌に行く事になるとは。

会社の事業所に惹かれた、という理由以上に札幌に行きたいと思ったのは「東京が嫌いだから」。とにかく混んだ電車が嫌いでした。日吉の2年間は日吉に住み、三田の2年間は三田に住み、普段の移動手段はバイク。そんな自分が通勤電車で揺られることが想像できなかつた。人が多いところは苦手だし、空気も水もまずいし、街は汚いし、夏はやけに暑く、冬寒外寒い。

そんな東京嫌いな私が夢の札幌。けれど現実には薔薇色とは行かなかつた。

札幌に来てしばらく苦労したのは知り合いが全くいないことだ。会社の同僚以外は知らないもので、しばらくは寂しい思いをした。だが、ダーツを始め、毎晩ダーツバーに通うようになって仲間が増えてからそんなこともなくなった(そのかわりえらく太つたが)。あと、会社の同期に恵まれたのにも救われた。札幌の同期だけで20人近くおり、みんなで小旅行に行ったり、キャンプに行ったりと楽しく仲良く過ごした。次々同期同士で結婚していくのに、自分だけは見事に売れ残ってしまったのだが。

他に辛かつたことといえば、雪と寒さだろうか。金沢出身なのである程度雪にはなれているが、レベルが違う。何せ道路が雪で覆われていて、その上を車で走るのだ。年に1度は必ずどこかにぶつかつていた。

寒さに関しては屋内についてはしっかり防寒が為されていて大丈夫だった。むしろ東京の屋内のほうがつらい。隙間風が入ってきて耐えられなくなる。辛かつたのは車に乗るとき。屋外で吹き晒された車のフロントガラスは完全に凍結して前が見えないので、凍結が溶けるまで待たなければならない。けれど車の



札幌の大自然

中は冷蔵庫のように寒く、暖房をつけても冷風しか出てこない。寒さに弱い方が北海道に移り住む際、車には「リモートスターター」という機能をつけることをお勧めする。遠隔からリモコンで車のエンジンをかける機能で、出発の少し前にエンジンをかけておいて、車に付いた頃には車内は暖か、という便利機能である。

話は反れるが雪国の便利機能といえば、もうひとつ、駐車場に付く機能で「ロードヒーティング」というものがある。これは駐車場の床を熱で暖めて雪を溶かしてくれる機能なのだが、これがあるとないとでは生活がずいぶん変わる。ロードヒーティングがなければ大雪が降るたびに雪かきしなければならないのだ。腰痛持ちの方が北海道に移り住む際は是非ロードヒーティング付きの駐車場のある家をお勧めする。

閑話休題、何より札幌で一番つらかったのはラーメン二郎が食べられなかったこと。札幌にもおいしいラーメン屋さんはそれこそ山ほどあったがラーメン二郎にはかなわない。

一方、札幌に移り住んでみて良いと思ったことを挙げればきりが無い。部屋が安くて広い。飯がうまい。空気がうまい。自然にあふれている。女性が綺麗。梅雨がない。夏が涼しい。日ハムは強いし、なによりみんなが良い。ちなみに部屋は駅徒歩5分2LDK 駐車場付きで6万9千円也。結局1部屋は東京に移り住むまでは物置と化していたが。

北海道の一番の思い出は車で北海道をキャンプして周ったことだろう。夏に函館、旭川、知床、釧路などなどの各地を5,6日かけて回った。北海道は車でドライブするにはもってこいのところなのだが、生憎その週は連日30度を超える暑さ。せっかくの自慢のオープンカーも幌を上げる機会もなく、がっかりだったのだが、それを穴埋めするに余りある自然がそこにはあった。層雲峡は黒岳の頂上で見た別世界の景色は未だに目に焼きついている。

それから転職を機に東京に帰ってくることを決めたのは尿酸値も体重も基準を超えた27歳のこと。

何故またまたあんなに嫌いな東京に帰ってきたのか。

こっちはれっきとした理由がある。「システム監査の仕事がしたかったからです。札幌には仕事の需要がないから東京に来ました。」住環境も職場環境も何一つ不満はなかったのに、相当悩んだのだが、一度やりたいと思ったからにはと札幌からの転職活動。正直地方からの転職活動は辛かった。面接に行くとなると有給を取って飛行機乗って出かけなければならない。何社も受けられないので1社に絞って転職活動をした。

監査法人トーマツに転職したのは2008年2月1日。6年ぶりの東京だ。

久々の東京はどうかというと。あれほど嫌いだった通勤電車は未だに好きではない。

だが、東京は東京で楽しいことが多いと思うようになってきた。とにかくエンターテイメントに事欠かない。舞台や音楽などの公演がいつもある。東京にいても西武球場やマリーナスタジアムで日ハムの試合が見られるのも良い。最近嵌っているのは歌舞伎を見に行くことだ。地方じゃ全く見られないが、東京だったら歌舞伎座で毎日見ることができる。

そして、東京に帰ってきてつくづく思う。ラーメン二郎は世界一の食べ物だなあ、と。



ラーメン二郎